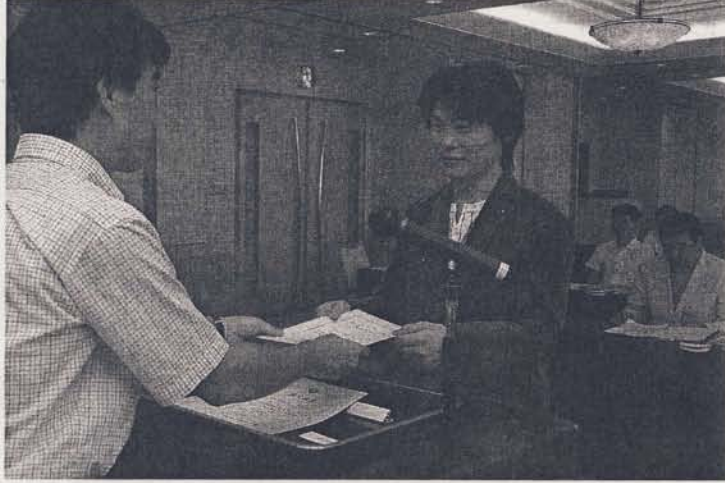


最年少23歳マスター誕生

県世界遺産第2期20人に認定書

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全、継承「県世界遺産マスター」の第2期認定者20人が決ま



原副知事(左)から認定書を受け取る最年少の児嶋さん(和歌山市湊通丁北のアパローム紀の国で)

り、8日、和歌山市湊通丁北、アパローム紀の国で認定式が開かれた。初めて20〜30歳代のマスターが誕生するなど制度の浸透を示した。

マスターは高野、熊野の両地域に分かれ、講義と現地学習の研修会を延べ20時間受講し、認定試験に合格して認められる。今回は高野地域が9人、熊野地域が11人で、前回4割だった遺産登録市町以外からの認定者が今回は7割を占めた。

最年少は23歳で20歳代と30歳代の各2人。前回の最年少が43歳だったのと比べ、世界遺産への関心のすそ野が広がっているとみら

れる。

認定式には14人が参加。原邦彰副知事から認定書が授与された。最年少マスターとなった同市北出島、ア

トディレクター児嶋啓輔さん(23)は「もっと若い人たちにも世界遺産について興味を持ってもらいたい」と話していた。